平成３０年度　テーマ別環境学習講座（第５回）　実施報告

「スポGOMI大会ｉｎ葛西～西なぎさで海ごみ問題を考えよう」

平成３１年3月

公益財団法人　東京都環境公社

平成３０年度　テーマ別環境学習講座（第５回）　実施報告

「スポＧＯＭＩ大会ｉｎ葛西～西なぎさで海ごみ問題を考えよう」

□実施日時　　平成３１年３月１６日（土）　９時 30 分～12 時３０分
□受講者数　　定員８０名　　受講申込者 133 名　　当日参加者 101 名（26 チーム）
□開催場所　　葛西海浜公園西なぎさ・葛西臨海水族園

□実施内容

・ラムサール条約湿地として登録された葛西海浜公園の西なぎさでスポ GOMI 大会を行った後、葛西臨海水族園で、海ごみ問題や干潟の生物多様性を考える講義を実施。
本講座は、東京 2020 オリンピック競技大会 500 日前イベントとして実施しました。
・原田環境大臣、多田江戸川区長が、スポ GOMI にご参加くださいました。

○挨拶
・開催挨拶　和賀井東京都環境局長
・来賓挨拶　原田環境大臣
・来賓挨拶　多田江戸川区長

（和賀井環境局長）

（原田環境大臣）

（多田江戸川区長）

○「西なぎさ発・東京里海エイド」活動報告
・日頃より西なぎさで漂着ごみのクリーンアップ活動を行っている DEXTE－K 代表橋爪氏より、「西なぎさ発・東京里海エイド」の活動報告。

（DEXTE－K 代表　橋爪氏）

平成３０年度　テーマ別環境学習講座（第５回）　実施報告

【第１部　スポGOMI大会 in 葛西】

〇開会式

（講師）一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ　代表理事　馬見塚 健一氏

・スポGOMIとは、予め定められたエリアで、制限時間内にチームワークでごみを拾い、ごみの量と質でポイントを競い合うスポーツ。今回は、海ごみ問題で注目されているマイクロプラスチックについて参加者に考えてもらうため、“プラスチックのかけら”の得点を高くした特別ルールで実施。

（チーム紹介）

（馬見塚氏からルール説明）

（作戦会議）

（「4人兄弟！」チームの選手宣誓）

（スタート発声、「ゴミ拾いは、スポーツだ！」

（競技開始！一斉にエリアに散らばる参加者）

（環境大臣率いる環境省チーム）

（砂浜で、プラごみを探す参加者）

（小さいプラごみ探しは子供が得意）

（海岸に流れついたごみ）

（ごみ袋に入りきらない量のペットボトル）

（様々なごみが落ちています）

（色とりどりの小さなプラスチック片）

〇競技終了、計量開始

（スポ GOMI で集まったごみ）

（きれいに見える西なぎさにも、小さいプラごみが流れついています）

（同時に活動した「西なぎさ発・東京里海エイド」で集められた漂着ごみ）

【第２部　講義】

・会場を、西なぎさから、葛西臨海水族園レクチャールームに移動し、講義を実施。

〇講義「みんなが当事者、海ごみ問題～川ごみから見えてくること」

（講師）NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラム　五十嵐 実氏

・荒川クリーンエイド・フォーラムは、荒川流域でのごみ拾いを 26 年継続して行っている。実施エリアは１都１県 10 市９区、実施回数 173 回、参加者数 12,910 人。

・2018 年調べるごみの結果、容器包装類が約８割を占め、一番多いのはペットボトルだった。

・荒川のごみの状況を 20 年前と比べてみても、状況は変わっていない。ペットボトルが目立つようになった。

（荒川クリーンエイド・フォーラム　五十嵐 実氏）

・川ごみは、街のごみが発生源になっている。人々が街で出したごみが、雨や風で川に運ばれ、川から海に運ばれて、海ごみになる。

・３つの海ごみ問題

2050 年問題：2050 年までに海を漂うプラスチックごみの量は魚の量を上回ると言われている。１分ごとに清掃車１台分のごみが海へ流れ込んでいる。

マイクロプラスチック問題：大きさ 5mm 以下のプラスチックごみで、有害な化学物質が高濃度に吸着する。自然に分解されるには非常に長い時間がかかり、生物への影響が懸念される。

生物多様性保全問題：多くの生き物がエサと間違えて誤飲する。また、海ごみとなったプラスチックの多くが海底に溜まっており、深海生物にも深刻な影響が及んでいるという研究結果がつい最近発表された。

・３R（リデュース・リユース・リサイクル）をはじめ、海ごみを減らすために、私たちにできることを考え実践することが大切。

平成３０年度　テーマ別環境学習講座（第５回）　実施報告

〇講義「干潟の生物」

（講師）葛西臨海水族園　飼育展示課　教育普及係長　池田 正人氏

（アサリの水質浄化実験）

・干潟の生物や役割を知り、干潟を守ることの大切さを学ぶ。
・干潟には、どんな生物がいるのか。プランクトン、ケイソウ、コメツキガニ、トビハゼ、水鳥、アサリなど。
・干潟には大きな生物が入ってこられないので、小さな生物が暮らせる。稚魚も多い。
・西なぎさ・東なぎさは、人工の干潟である。
・赤潮と青潮の発生原因。
・干潟には、水をきれいにする役割もある。アサリの入った海水と何も入っていない海水に、クロレラを入れてしばらく置くと、アサリの入っている海水の方がきれいになる。二枚貝がプランクトンを食べ水質を浄化している。

〇スポ GOMI 大会閉会式

・約４0 分間の競技時間に、みんなで集めたごみの量は約 18 ㎏。小さいプラスチックごみを中心に、たくさん集めていただきました。
・１～３位のチームには、表彰状と景品をお渡ししました。優勝は、ご家族でご参加のチーム。特別賞として、ソーシャルスポーツイニシアチブから、ごみ拾い用トングの贈呈も行いました。

（スポＧＯＭＩ大会閉会式）

（表彰状の授与）

〇アンケート記入・講座終了

参加者の皆様にアンケート記入にご協力いただきました。
当日ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。